

スマート農業視察 営農指導員が研修



水稲の広域生育診断システムを視察するJA営農指導員ら

担い手サポート センター

県JA営農指導員協議会とJAグループ山形地域・担い手サポートセンターは9日、山形市の県農業総合研究センターなどでJA営農指導員の全体研修会を開いた。約50人が参加した。

研究センターでは、高品質・良食味の県産米ブランド維持に向け、人工衛星からの画像で水稲の生育状況を遠隔で測定するリモートセンシング技術を活用した広域生育診断システムを視察。スマート農業の研究最前線に触れた。

ブランド米「つや姫」や、デビュー2年目となる「雪若丸」の出穂前の生育状況などについても説明を受けた。

センターに昨年開設された県産農産物の加工開発を支援する「食品加工支援ラボ」も視察した。

この後、県土地改良会館で、10月からの消費税率引き上げに伴い導入される軽減税率や、2023年10月以降に導入予定の適格請求書等保存方式（インボイス制度）に関する研修会を開いた。

税理士で、JA全中営農担い手支援課の栗山賢陽さんから、農業経営への影響や留意点について

説明を受けた。
県JA営農指導員協議会の会員は現在、279人。